

## 日大の質的向上を願う

日大のトップを理事長とし、独裁体制に走らせる切っ掛けを作った人物は、某学部の当時の学部長と事務局長らが関係していたと言われている。昔から一目置かれていたこの二人は、金銭の絡んだ当時の総長選挙に便乗したものであり、選挙自体が悪を助長する結果となってしまったことは大変残念なことだ。当時、誰からも大なり小なり敬遠されていた人物同志らと結託して組織自体を攪乱させ、その後は要職に就いて現在は退職している。過去10年以上前の現役時代から退職までの金銭面・言動などを調べれば過去の実態を明らかにすることができるだろう。大学教育での尽力ではなく、結果を考えずに悪知恵を働かせ、その旨い汁を吸おうとするような人間は日大の卒業生としての恥晒しである。もしも日本国家の叙勲対象になったとしたら大きな問題である。切磋琢磨して真摯に教育研究の道を歩んだ人達に授与されるべく勲章を汚すことになるだろう。

今回のアメフトの問題をきっかけに、大学自体のガバナンス欠如が指摘され一般世論からは痛烈に批判されてきている。アメフトだけが悪いのではなく、大学自体にも大きな問題がありその異常さが暴露されたがために、過去130年の歴史で築き上げられてきた日大の伝統や評価をトコトン落してしまった。その結果として受験生への影響も間違なしで、入学志願者減に繋がってしまうだろう。大学の評価はスポーツではなく、主に一般入試の受験生の偏差値で評価されるので、その低下は避けられず大きな打撃となってしまった。今後は体育系のクラブ活動では勝敗をあまり気にせず、学業を優先する学生スポーツに徹してほしい。運動だけ秀でていても社会では通用せず、文武両道に優れた人材を望んでいるはずである。

学部長や総長の選挙戦では立候補者は立派な公約を並べるが、当選後は目先のことしか考えが回らないような気がする。例えば、緊縮財政をやらなければ大学の経営が苦しくなると理由付けし、その対策として学生数の増加という形でその場凌ぎで終わってしまう。これでは何年経っても大学の質的向上はありえないので、入試対策と同時に大きな将来のビジョンを持って対策を継続して検討していくべきである。口先だけでは駄目で、斬新奇抜な方策をもって邁進すべきだ。緊縮財政の中で少しずつ定員削減を図り、大学の偏差値を挙げて大学の名声を取り戻してほしい。受験生減少時の今やらなければ後にはありえないはずである。この目標を次の世代に確実に申し送っていくよう、総長が先頭に立ち、教職員一体となって普遍的な体制を確立してほしい。

現在のように、全学生数が約8万人と他大学に比べて桁外れに多いにもかかわらず、既設学部の定員増や不要学部を新設するようでは、逆に偏差値の降下を狙ったようなものである。裏口入学も同時に絶対に禁止すべきである（以前から禁止になっている筈だが、ス

ポーツ入学か?)。これらは学生の質を下げてしまう大きな弊害となっている。この巨大組織をレベルアップすることは並大抵のことではなく、肩を並べていた同僚大学からも次第に引き離され、国内大学の平均より下位に位置づけとなってしまったような気がする。また、日大生に対する社会の評判や評価には厳しいものがある。教員自身が近年の学生の思考能力低下について身を以て実感しているはずだ。だからこそ、教員は“無関心の関心”を装わず、もっと積極的に大学の軌道修正を提案して欲しい。これを受けて、執行部はただ傍観せず、その提案を真剣に聞き入れて方策を検討する姿勢を示して欲しい。

最近では、国家試験を受けても合格できない学生が増えてきている。ある学部の担当者いわく、“国家試験の合格率の低迷は、昔より偏差値の低い学生が沢山入ってきているので、懸命に事前教育しても合格させることが不可能だ”と嘆いていた。一方、一般社会においてもしかりで、社会の一線で活躍している卒業生が年々減ってきている。小さな会社の社長さんばかりいても、一般社会で比較対象とされる大手企業では社長数が以前よりも徐々に減少してきている。誠に寂しいことだ。

一般的に、知的能力の高い人間は将来的に社会でも伸びて立派に活躍している。運動だけ強くてもダメである。また、努力によって不足した能力を補うことはできるが、それだけでも不十分な場合もあり、ある程度の知的能力の高さが必要とされる。しかし、現在努力するという意味さえ理解しえない学生も多くいる。現学長が言うように、入学後の教育力で能力アップを図ろうとする日大の現状打破の方策にも一理はあるが、それにも限度がある。この“レベルアップは一日にして成らず”で、簡単に実現できるものではない。先ず評価を上げることを念頭において、マイナスからの再スタートを覚悟で奮起すれば自ずと大学自体のガバナンスも同時に醸成されていくことだろう。

日大の卒業生が社会で堂々と日大卒であると公言できるよう、立派な大学に位置付けて欲しい。以前に卒業生が“私は敢えて自分の出身校を言わないようにしている”と言っていたことが心に痛く感じた。近い将来に日大卒ですと堂々と胸を張って言えるような大学にしてほしいものだ。選ばれた大学の代表である学部長や総長(学長)は、紋切り型の改革ではなく、某国大統領や首相のような斬新的な決断をもって大学の質的向上を図るよう、教職員の協力の下で一層努力して欲しい。この考えをその場限りとせず、次期執行部へも確実に申し送って欲しい。

今回の出来事を良い教訓として、大学の真の執行部である総長(学長)と学部長は、大学運営のために初心に立ち返り、我が身を大学の質的向上に捧げる覚悟で改革していただくことを是非ともお願いしたい。その際、内部評価の自己点検だけでは改善策は期待できないので、独立した第三者委員(無償、OBを除く部外者)による外部評価の審査も是非必要である。